

3

Once upon a time, there was an extremely fast flowing river.

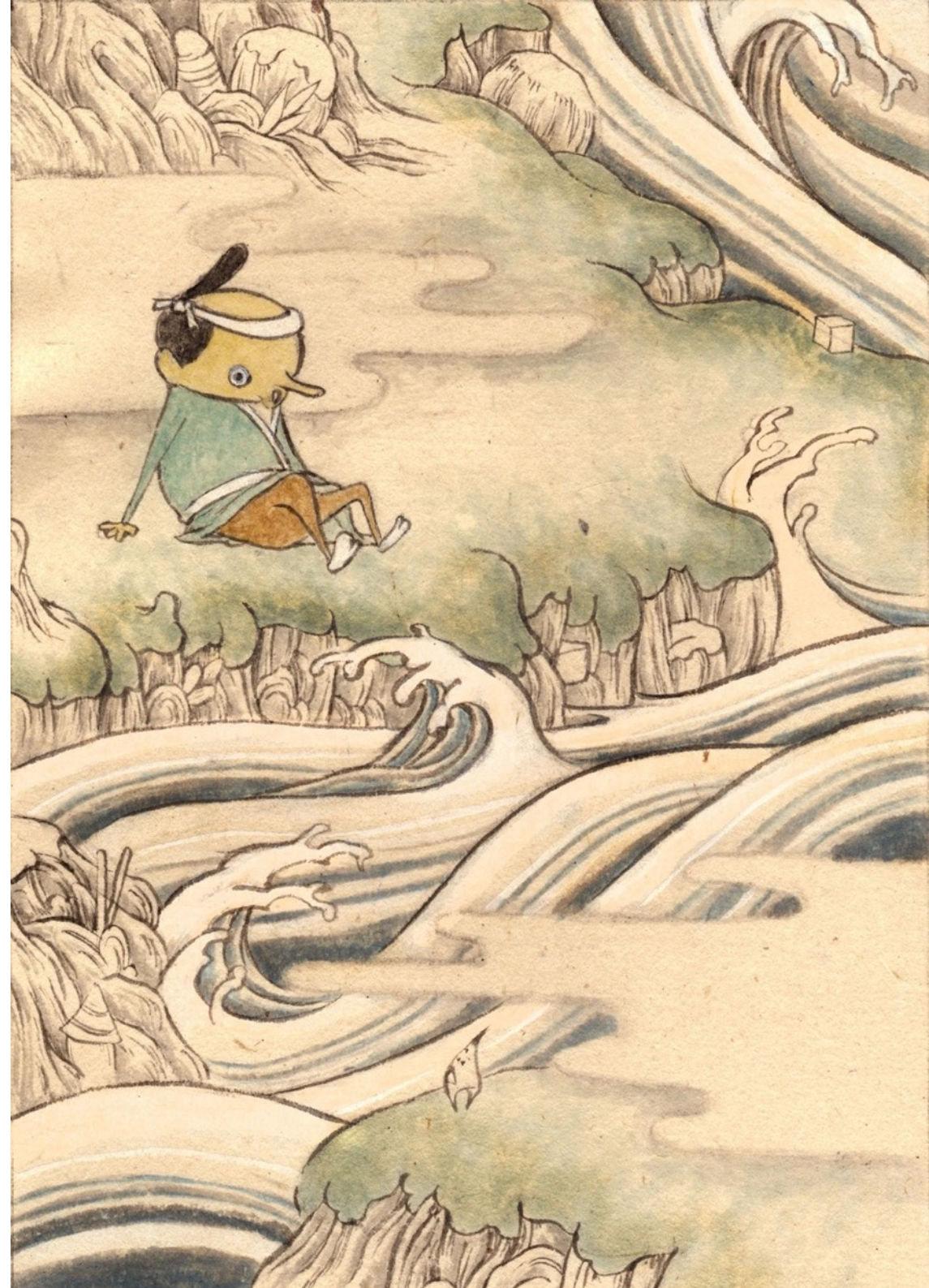
Since the current of the river was too fast, no matter how many times people built bridges over it, each one got destroyed and swept away every time it rained.

And so, the people in the village decided to go to a town and hire a skillful carpenter to build a sturdy, unbreakable bridge.

Thus a highly skilled carpenter came to the village.

"Wow! I've never seen a river with such a strong current before!"

The carpenter was overwhelmingly surprised by the violently-flowing current of the river.



5

Then, at that moment, a single ^{*1} oni came out of the river.

The oni was big, had two horns, and a wide mouth, that stretched from ear to ear, with sharp fangs.

"Hey, you! This is my territory. What did you come here for!?"

"Oh no, please forgive me! I was just asked to build a bridge over this river. Please don't kill me..."

"Build a bridge over this river? Well...alright human. I'll build a bridge for you here."

"What?! R-really!?"

"But instead, I will take those two eyeballs of yours. You got it? It's a deal!"

After these words, the oni went back into the river.



むかし むかし、ある むらに、
たいへん ながれの はやい かわが ありました。

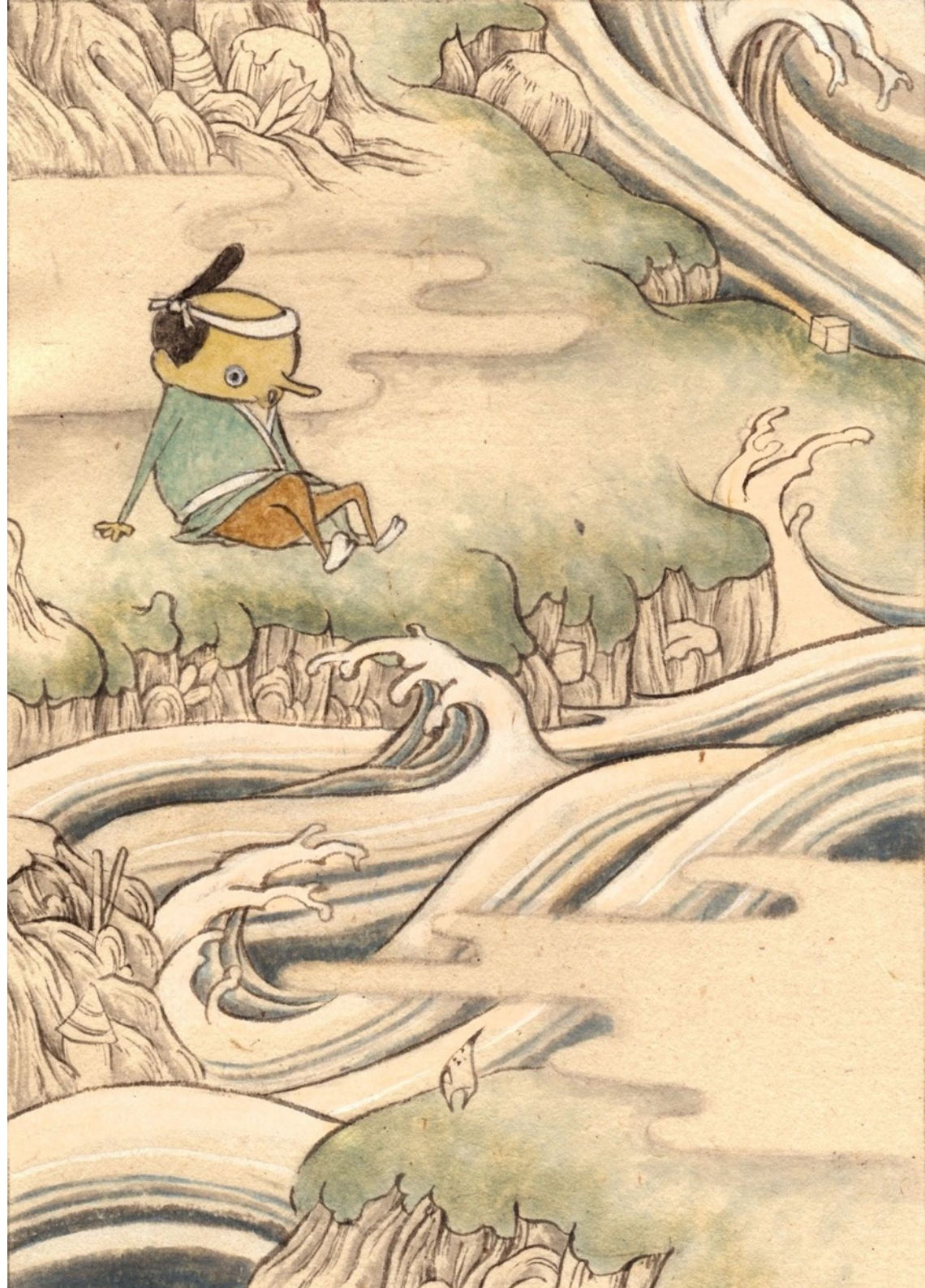
あまりに ながれが はやく、
なんど はしを かけても、あめが ふる たびに、
はしは こわれて、ながされてしまいます。

そこで むらの ひとびとは、
まちまで いった うでのいい だいくを やとい、
こわれないう じょうぶな はしを
つくってもらうことに しました。

こうして むらに、
とても うでのいい だいくが やってきました。

「うひゃ～！こんなに ながれの はやい かわ、
おいら はじめて みた！」

だいくは、あまりに ながれの はげしい かわを みて、
おどろいて こしをぬかして しまいました。



すると そのとき、かわの なかから、
いっぴきの おにが すがたを あらわしました。
おおきな からだに、にほんの つの。みみまで さけた
くちには、するどい きばが はえています。

「おい、おまえ！ここは おれの なわぼりだ。

ここに なにをしに きた！」

「ひえ～、た、たすけてくれ～！おいら ただ たのまれて、

この かわに はしを かけにきた だけだ。

おねがいだから みのがしてくれ～・・・」

「この かわに はしを かけるだと？そうだなあ・・・

よし、にんげん。おれが おまえの かわりに、

ここに はしを かけてやろう」

「え、ほ、ほんとうですか！」

「ただし そのかわり、おまえの かおに ついている、

まんまるい めだまを ふたつ、おれが もらってやる。

いいか、やくそくだぞ！」

おには そういうと、

かわの なかに もぐっていきました。



